

法務局の地図 XML をシェープに変換 説明書

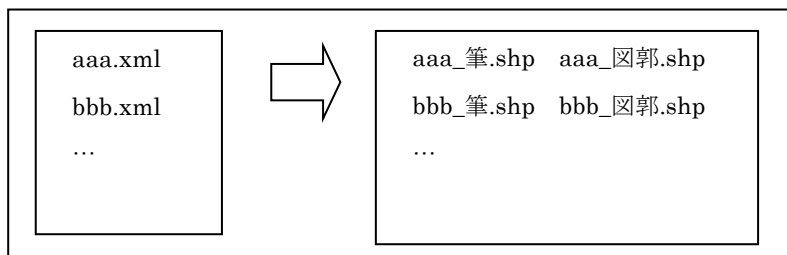
2016/10/20

有限会社ジオ・コーチ・システムズ

<http://www.geocoach.co.jp/>

info@geocoach.co.jp

法務局の「地図 XML」内の「筆」と「図郭」をシェープファイルに変換します。



変換対象となる XML ファイルの 2 行目の先頭部分です

```
<地図 xmlns="http://www.moj.go.jp/MINJI/tizuxml"
```

「筆」のシェープファイルのレコードに、所属する「図郭」の「地図番号」をセットします。

番号	属性名	属性値
1	大字コード	
2	丁目コード	
3	小字コード	
4	予備コード	
5	大字名	
6	丁目名	
7	小字名	
8	予備名	
9	地番	
10	精度区分	
11	座標値種別	
12	筆未大字コ	
13	筆未丁目コ	
14	筆未小字コ	
15	筆未予備コ	
16	筆未大字名	
17	筆未丁目名	
18	筆未予備名	
19	筆未地番	
20	図郭地図番	test-1-2-3

(上図は、作成した「筆」のシェープファイルを開いて、筆のフィールドを表示した画面です)

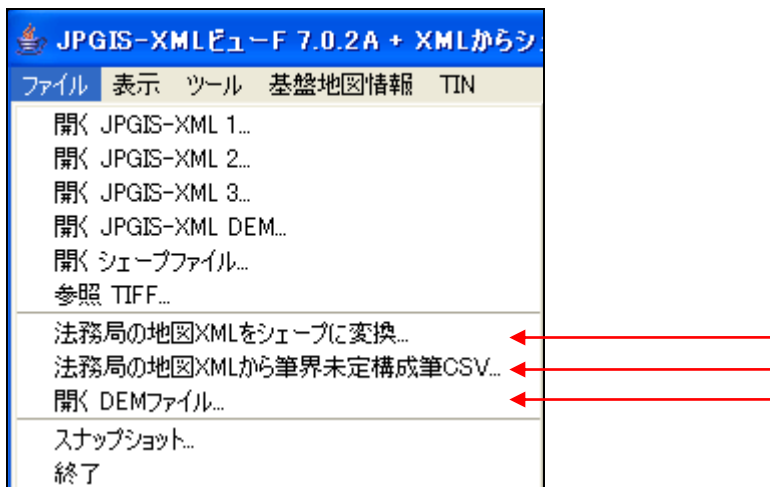
以下のソフトウェアに専用ライセンスを設定することで、変換機能が使えるようになります。

アプリケーション名	バージョン	日付
JPGIS-XML ビューF	7.1.0 α 以降	2013/06/27 以降

フリーウェア「JPGIS-XML ビューF」のバージョン 7.0.2 から、XML の「筆」と「図郭」が表示できます。

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/business/se433427.html>

オプションライセンスが設定されていると、ファイルメニューに「法務局の地図 XML をシェープに変換」と「法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV」「開く DEM」を表示します。



目次

1. XML からシェープファイルへ変換.....	1
1.1. XML ファイル	1
1.2. 変換の設定	2
1.3. ダイアログ	3
1.4. 作成するシェープファイル.....	4
2. 法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV	9
3. 参照 DEM ファイル	12
4. その他.....	16
4.1. 注意	16
4.2. 更新記録.....	16
4.3. 目次	17

1. XML からシェープファイルへ変換

1.1. XML ファイル

変換元の XML ファイルの先頭部分です。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>  
<地図 xmlns="http://www.moj.go.jp/MINJI/tizuxml" xmlns:zmn="http://www.moj.go.jp/MINJI/tizuxml/zmn"?>  
  <version>ver1.0</version>
```

この中の地物「筆」の Surface と「図郭」をポリゴンのシェープファイルに変換します。

```
<筆 id=" " >↓  
  <大字コード> " " </大字コード>↓  
  <丁目コード> " " </丁目コード>↓  
  <小字コード> "0" </小字コード>↓  
  <予備コード> " " </予備コード>↓  
  <大字名> " " </大字名>↓  
  <予備名> " " </予備名>↓  
  <地番> " " /地番↓  
  <形状 idref=" " 1" />↓  
  <精度区分> " " </精度区分>↓  
  <座標値種別> " " /座標値種別↓  
</筆>↓
```

```
<図郭>↓  
  <地図番号> " " /地図番号↓  
  <方位不明フラグ> false </方位不明フラグ>↓  
  <左下座標>↓  
    <zmn:X> " " 5 </zmn:X>↓  
    <zmn:Y> " " </zmn:Y>↓  
  </左下座標>↓  
  <左上座標>↓  
    <zmn:X> " " </zmn:X>↓  
    <zmn:Y> " " </zmn:Y>↓  
  </左上座標>↓  
  <右下座標>↓  
    <zmn:X> " " </zmn:X>↓  
    <zmn:Y> " " </zmn:Y>↓  
  </右下座標>↓  
  <右上座標>↓  
    <zmn:X> " " </zmn:X>↓  
    <zmn:Y> " " </zmn:Y>↓  
  </右上座標>↓  
  <地図種類> " " </地図種類>↓  
  <地図分類> " " </地図分類>↓  
  <地図材質> " " /地図材質↓  
  <筆参照 idref=" " " />↓  
  <筆参照 idref=" " " />↓  
  <筆参照 idref=" " " />↓
```

1.2. 変換の設定

XML の要素の属性と作成するシェープファイルのフィールドの内容を設定ファイルで指定します。

設定ファイル「MINJI_tizu_xml_to_shape.csv」の内容です。1行目はヘッダで、2行目からが設定情報です。

	A	B	C	D	E	F	G
1	地物名	タグ名	フィールド名	フィールド型	フィールド長	少数部の長さ	2012/11/22更新
2							
3	筆						
4		大字コード	大字コード	N			
5		丁目コード	丁目コード	N			
6		小字コード	小字コード	N			
7		予備コード	予備コード	N			
8		大字名	大字名				
9		丁目名	丁目名				
10		小字名	小字名				
11		予備名	予備名				
12		地番	地番				
13		精度区分	精度区分				
14		座標値種別	座標値種別				
15		筆界未定構成筆/大字コード	筆未大字コ	N			
16		筆界未定構成筆/丁目コード	筆未丁目コ	N			
17		筆界未定構成筆/小字コード	筆未小字コ	N			
18		筆界未定構成筆/予備コード	筆未予備コ	N			
19		筆界未定構成筆/大字名	筆未大字名				
20		筆界未定構成筆/丁目名	筆未丁目名				
21		筆界未定構成筆/予備名	筆未予備名				
22		筆界未定構成筆/地番	筆未地番				
23		図郭地図番号	図郭地図番	C		20	特殊処理
24							
25	図郭						
26		地図番号	地図番号				
27		縮尺分母	縮尺分母				
28		方位不明フラグ	方位不明フ				
29		左下座標/X	左下座標X	F		3	
30		左下座標/Y	左下座標Y	F		3	
31		左上座標/X	左上座標X	F		3	
32		左上座標/Y	左上座標Y	F		3	
33		右下座標/X	右下座標X	F		3	
34		右下座標/Y	右下座標Y	F		3	
35		右上座標/X	右上座標X	F		3	
36		右上座標/Y	右上座標Y	F		3	
37		地図種類	地図種類				
38		地図分類	地図分類				
39		地図材質	地図材質				
40		地図作成年月日/年	地図作成年	N			
41		地図作成年月日/月	地図作成月	N			
42		地図作成年月日/日	地図作成日	N			
43		地図作成年月日/年	備府地図年	N			
44		地図作成年月日/月	備府地図月	N			
45		地図作成年月日/日	備府地図日	N			

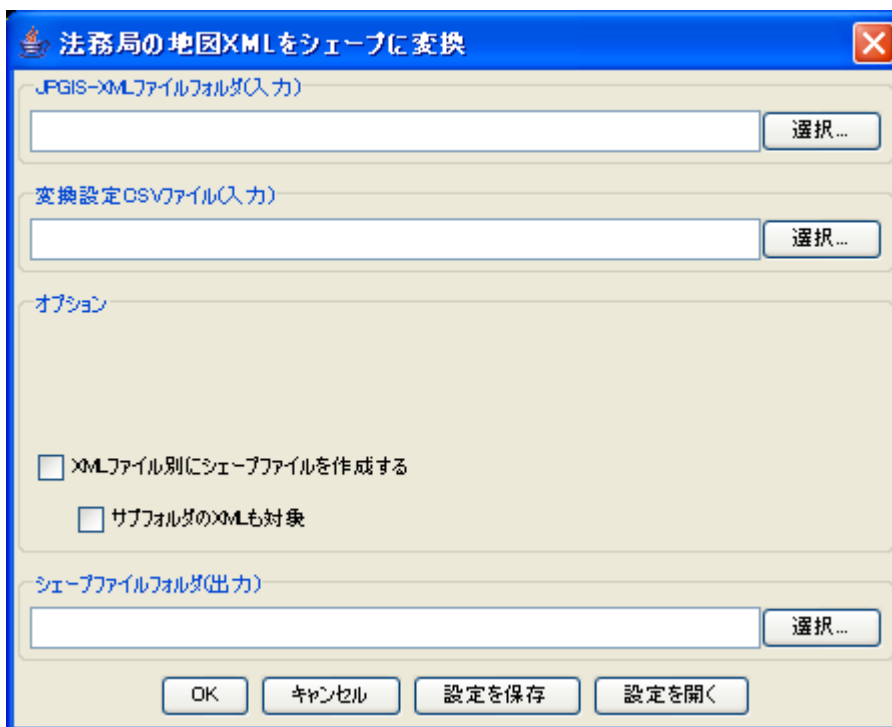
列	型	内容
1	文字列	XML の地物名。次の行からは空白にしておきます。
2	文字列	XML のタグ名。 子要素の場合、スラッシュ「/」で区切ります。

3	文字列	シェープファイルのフィールド名です。 シェープファイルの仕様上、10バイトまでなので、全角の場合5文字までになります。
4	文字列	フィールドの型を半角大文字アルファベットで指定します。空白の場合、"C"とみなします。 "C" 文字列 "N" 数値 "F" 実数
5	整数	フィールド長。記録するデータの最大のバイト数です。255まで指定できます。 空白の場合は、XMLの属性から最大のバイト数を取得してセットします。 すべて空白の場合は、バイト数の最小値=1になります。
6	整数	実数の場合の小数点以下の桁数を指定します。文字列や整数の場合は空白にしておきます。

上記の変換テーブルの「筆」の「図郭地図番」については、特殊な処理を行います。

- ① 「図郭」の「筆参照」の「idref」から、これを参照している複数の「筆」を特定する
 - ② 「筆」から出力するシェープファイルに「図郭」の「地図番号」の文字列をセットする
- 特殊な処理のため、上記の変換テーブルでは、必ずフィールド長を指定してください。

1.3. ダイアログ



JPGIS-XML ファイルフォルダ(入力)

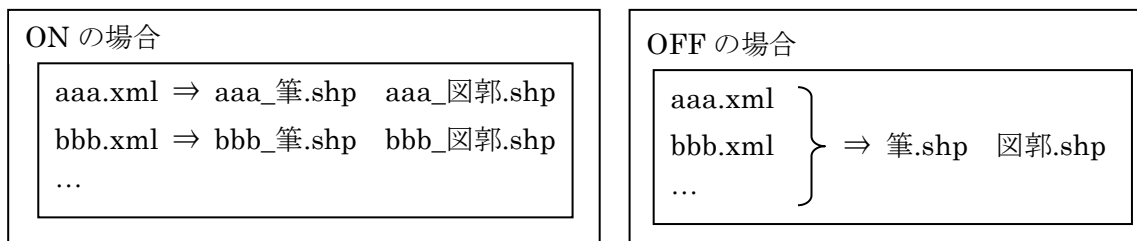
変換元の XML ファイルがあるフォルダを指定します。このフォルダ内の XML(拡張子.xml)を参照します。

変換設定 CSV ファイル(入力)

上記の変換設定ファイル「MINJI_tizu_xml_to_shape.csv」を指定します。

XML ファイル別にシェープファイルを作成する

ON の場合、それぞれの XML ファイル別にシェープファイルを作成します。この場合、XML ファイル名が「test.xml」だとすると、作成するシェープファイルは「test_筆.shp」「test_図郭.shp」となります。OFF の場合、すべての XML ファイルについて、ひとつのシェープファイルを作ります。この場合、シェープファイル名は「筆.shp」「図郭.shp」になります。



サブフォルダの XML も対象

「XML ファイル別にシェープファイルを作成する」が OFF の場合に有効なオプションです。変換元の XML ファイルが複数のフォルダに分かれている場合、上位のフォルダを指定して、そのフォルダ以下のすべての xml ファイルを参照して変換する場合のオプションです。

シェープファイルフォルダ(出力)

作成するシェープファイルのフォルダを指定します。

1.4. 作成するシェープファイル

XML の「筆」の Surface をポリゴンのシェープファイルに変換します。シェープファイルのフィールド名などは設定ファイルで指定します。下図は、作成したシェープファイルを開いた際のレポートです。

```

read D:\data\test222_単.shp
ファイル・コード=9994
未使用1=0
未使用2=0
未使用3=0
未使用4=0
未使用5=0
ファイル長=37290
バージョン=1000
シェープタイプ=5(Polygon)
Xの範囲
Yの範囲
Zの範囲 0.0, 0.0
Mの範囲 0.0, 0.0
test222_単.dbf 最終更新日 2012月11月23日
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 3 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=大字コード
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 3 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=丁目コード
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 4 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=小字コード
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 2 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=予備コード
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 4 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=大字名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 6 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=丁目名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=小字名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=予備名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 12 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=地番
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=精度区分
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 8 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=座標値種別
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未大字コ
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未丁目コ
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未小字コ
test222_単.dbf フィールド型=N フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未予備コ
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未大字名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未丁目名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未予備名
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 1 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=筆未地番
test222_単.dbf フィールド型=C フィールド長= 20 小数部の長さ= 0 作業領域ID= 0 MDXフィールドフラグ= 0 フィールド名=国部地図番
1のレコードをリードしました
1のポリゴン部分をリードしました

```

ガイド レポート チェックリスト

元のXMLには内周(interior)はないようです。内周部分は一筆書きの外周で表現されているようです。下図の赤い線がひとつのポリゴンです。



図郭については、「左下座標」「左上座標」「右下座標」「右上座標」で構成される四角形を、ポリゴンのシェープに変換します。下図は、作成した図郭のシェープファイルを開いて、選択した例です。

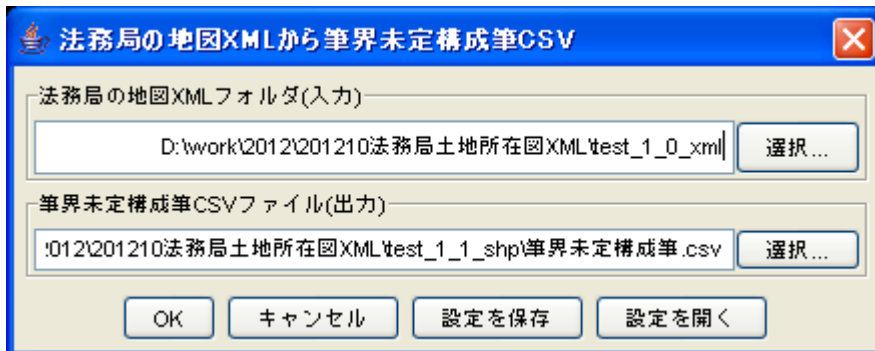
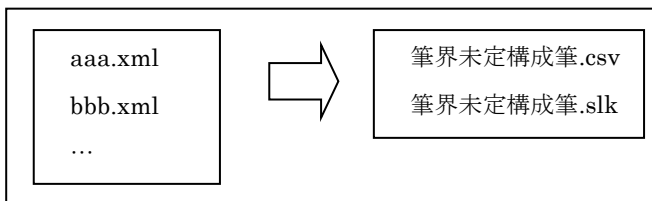
番号	属性名	属性値	備考
1	地図番号		
2	縮尺分母		
3	方位不明フ		
4	左下座標X		
5	左下座標Y		
6	左上座標X		
7	左上座標Y		
8	右下座標X		
9	右下座標Y		
10	右上座標X		
11	右上座標Y		
12	地図種類		..
13	地図分類		面
14	地図材質		
15	地図作成年		
16	地図作成年		
17	地図作成日		
18	備府地図年		
19	備府地図月		
20	備府地図日		
レコード番号		3	
パート		1 / 1	
タイプ		ポリゴン	右回り(外周)
面積		107999.97833	
周長		1319.99992	
ファイル名		testdata_図郭.shp	

元の XML ファイルに複数の組の情報がある場合、最初の組の情報をシェープファイルに記録します。XML に「筆界未定構成筆」が複数あれば、最初の「筆界未定構成筆」を記録します。

データ			
地物リスト		属性値	座標値
番号	属性名	属性値	備考
1	地物名	筆	要素名
2	id	H	要素の属性
3	大字コード	0	
4	丁目コード	0	
5	小字コード	0	
6	予備コード	0	
7	大字名	海	洋
8	予備名	ノ	
9	地番	筆	30
10	形状		idref="F0000016...
11	座標値種別	国	
12	筆界未定構成筆/大字コード	0	
13	筆界未定構成筆/丁目コード	0	
14	筆界未定構成筆/小字コード	0	
15	筆界未定構成筆/予備コード	0	
16	筆界未定構成筆/大字名	海	洋
17	筆界未定構成筆/予備名	ノ	
18	筆界未定構成筆/地番	6	
19	筆界未定構成筆/大字コード	0	
20	筆界未定構成筆/丁目コード	0	
21	筆界未定構成筆/小字コード	0	
22	筆界未定構成筆/予備コード	0	
23	筆界未定構成筆/大字名	海	洋
24	筆界未定構成筆/予備名	ノ	
25	筆界未定構成筆/地番	6buz-z	
	パート	1 / 1	
	タイプ	面	右回り(内周)
	面積	16.30893	
	周長	47.28748	
	ファイル名	34105.xml	

2. 法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV

「法務局の地図 XML」ファイルから、「筆界未定構成筆」の情報を取り出し、CSV と SYLK ファイルを作成します。



法務局の地図 XML フォルダ(入力)

「法務局の地図 XML」のフォルダを指定します。このフォルダ内の.xml をリードします。

筆界未定構成筆 CSV ファイル(出力)

作成する CSV ファイル名を指定します。同じ名前でも SYLK ファイル(.slk)も作成します。

ひとつの「筆」に複数の「筆界未定構成筆」がある場合、その組数だけ CSV と SYLK の行数になります。下図の 3 列の「順番」の 1,2 や 1,2,3,4,5 がそれぞれひとつの「筆」の情報です。

#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	ファイル名	id	順番	測量X	測量Y	大字コード	丁目コード	小字コード	予備コード	大字名	丁目名	小字名	予備名	地番	精度区分	座標値種別	筆界未定構成筆/大字コード
1						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-37	図上測量	021	
2						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-37	図上測量	021	
3						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-30	図上測量	021	
4						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-30	図上測量	021	
5						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-1	図上測量	021	
6						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-1	図上測量	021	
7						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-1	図上測量	021	
8						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-1	図上測量	021	
9						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-1	図上測量	021	
10						021	000	0000	01				／耕	筆界未定地-1	図上測量	021	

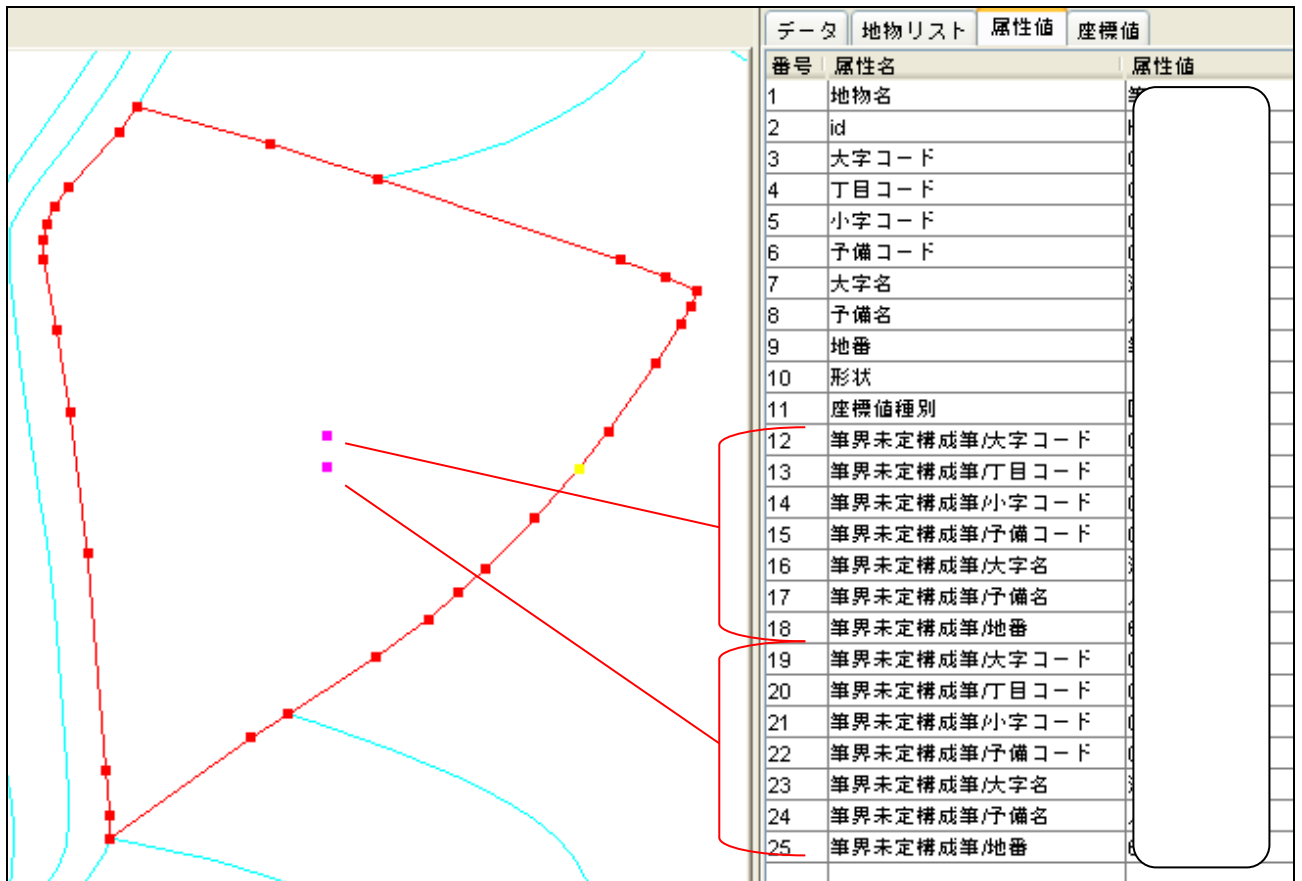
#	17	18	19	20	21	22	23
	筆界未定構成筆/大字コード	筆界未定構成筆/丁目コード	筆界未定構成筆/小字コード	筆界未定構成筆/予備コード	筆界未定構成筆/大字名	筆界未定構成筆/予備名	筆界未定構成筆/地番
1		000	0000	01		／耕	60001
2	021	000	0000	01		／耕	60002
3	021	000	0000	01		／耕	60003
4	021	000	0000	01		／耕	60004
5	021	000	0000	01		／耕	60005
6	021	000	0000	01		／耕	60006
7	021	000	0000	01		／耕	60007
8	021	000	0000	01		／耕	60008
9	021	000	0000	01		／耕	60009
10	021	000	0000	01		／耕	60010

作成する CSV と SYLK ファイルの 1 行目はヘッダで 2 行目からデータです。

列	型	内容
1	文字列	元の XML のファイル名
2	文字列	「筆」の属性「id」
3	数値	同じ「筆」内での「筆界未定構成筆」の順番。1,2,3,...
4	実数	「筆」の GM_Surface の中心付近の X 座標(測量座標)
5	実数	「筆」の GM_Surface の中心付近の Y 座標(測量座標)

6	文字列	「筆」の「大字コード」
7	文字列	「筆」の「丁目コード」
8	文字列	「筆」の「小字コード」
9	文字列	「筆」の「予備コード」
10	文字列	「筆」の「大字名」
11	文字列	「筆」の「丁目」
12	文字列	「筆」の「小字名」
13	文字列	「筆」の「予備名」
14	文字列	「筆」の「地番」
15	文字列	「筆」の「精度区分」
16	文字列	「筆」の「座標値種別」
17	文字列	「筆界未定構成筆」の「大字コード」
18	文字列	「筆界未定構成筆」の「丁目コード」
19	文字列	「筆界未定構成筆」の「小字コード」
20	文字列	「筆界未定構成筆」の「予備コード」
21	文字列	「筆界未定構成筆」の「大字名」
22	文字列	「筆界未定構成筆」の「予備名」
23	文字列	「筆界未定構成筆」の「地番」

4,5 列の座標は、「筆」の GM_Surface の中心付近の座標です。「筆」に複数の「筆界未定構成筆」がある場合、下側に 1m ずらします。確認については、メニュー「開く DEM」の説明を参照してください。



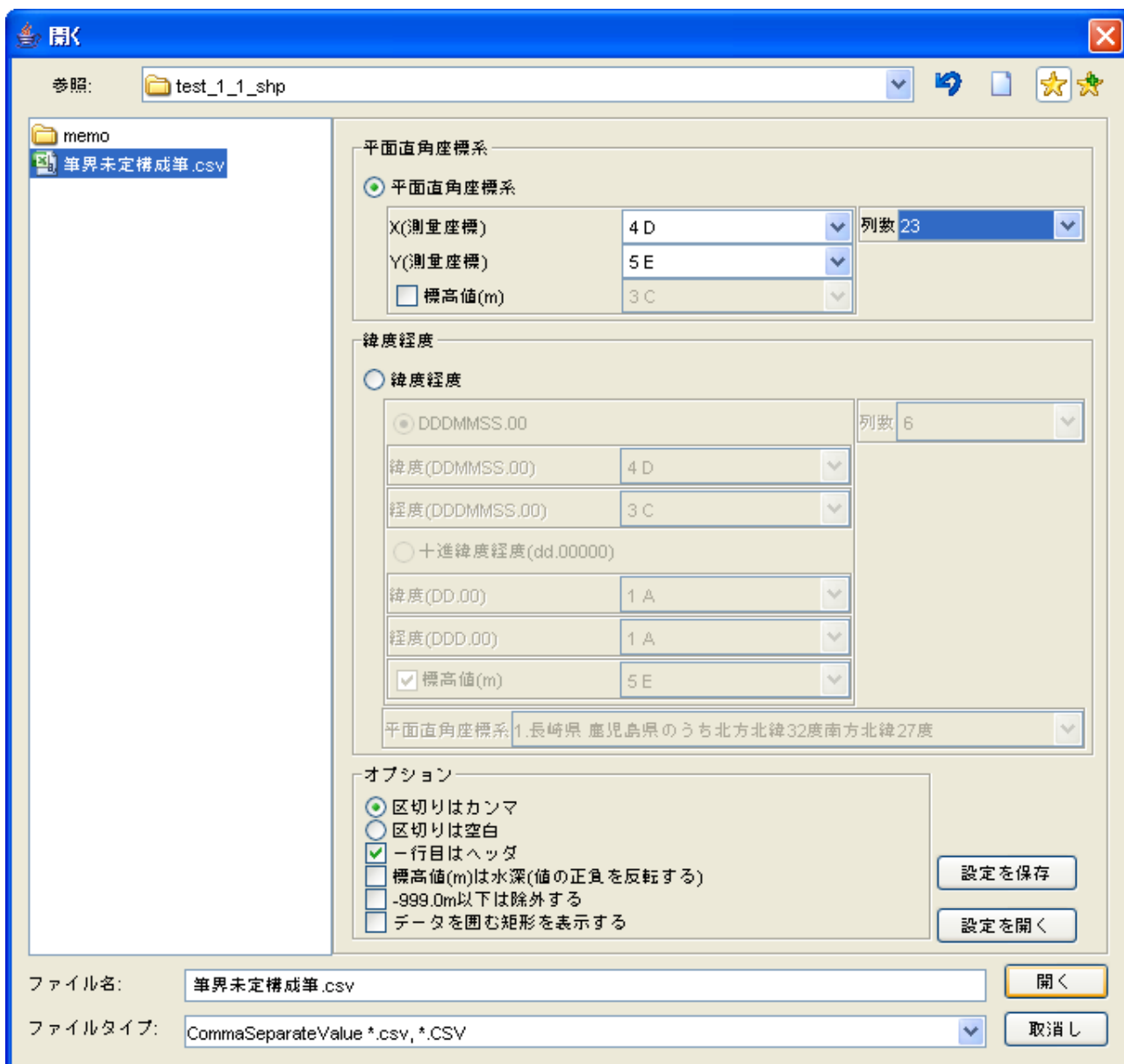
csv ファイルは Excel で開いた場合、「01」は「1」と表示されます。また「地番」の文字列がハイフン「-」を含むと、日付として表示されます。

21
筆界未定構成筆/地番
Jan-00
Feb-00
Mar-01

SYLK ファイルでは、データの型を「文字列」として記録しているので、Excel で開いた場合もそのまま表示されます。

3. 参照 DEM ファイル

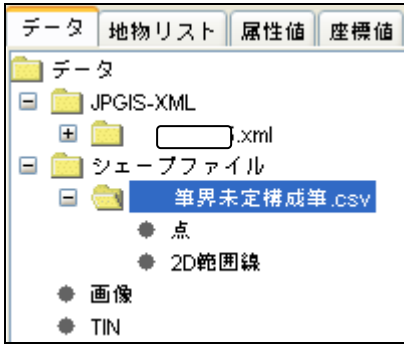
メニュー「法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV」で作成した CSV ファイルを確認するためのメニューです。



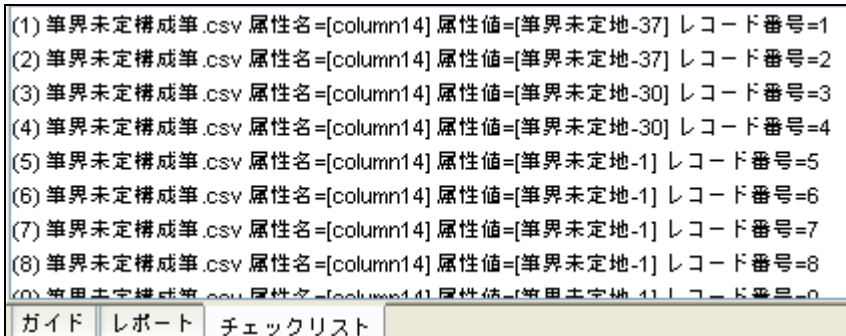
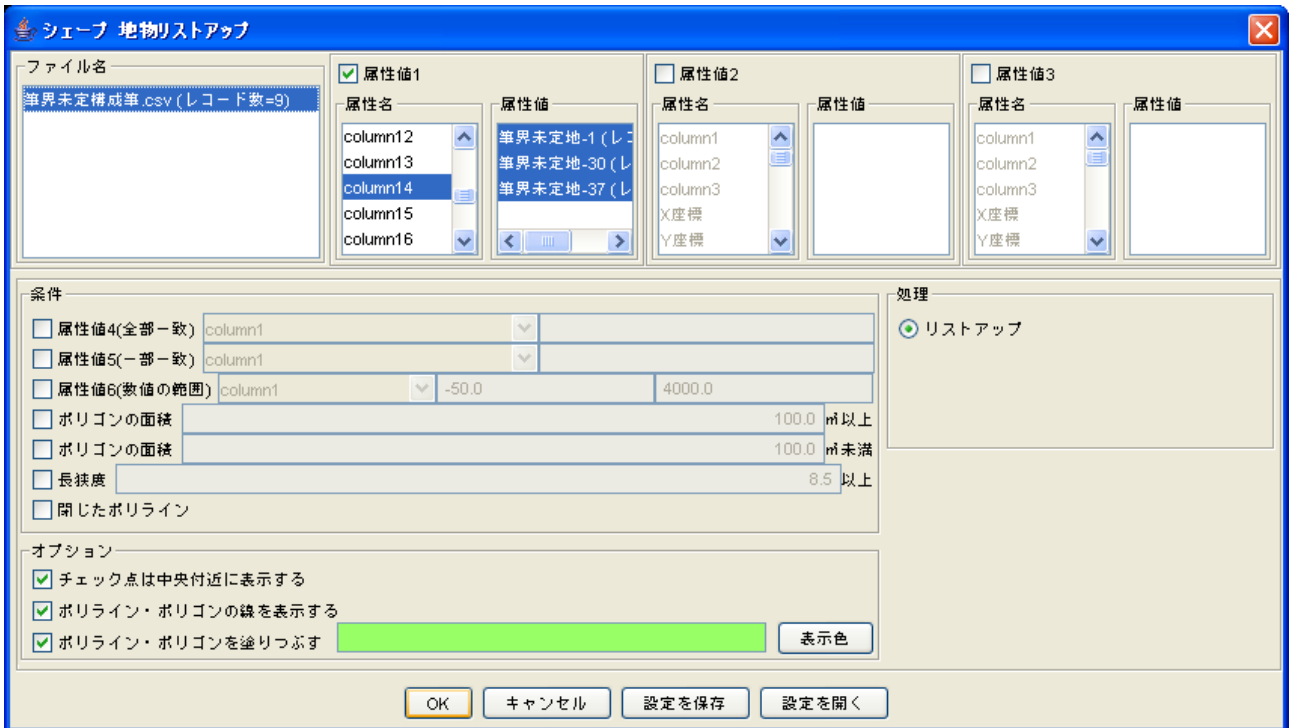
作成した CSV ファイルを選択し、上図の設定で開きます。

X(測量座標)	4
Y(測量座標)	5
標高値(m)	OFF
列数	23
区切りはカンマ	ON
一行目はヘッダ	ON

指定した CSV ファイルは、プログラム内部でシェープファイルデータとしてリードし「データパネル」にシェープファイルとして表示されます。



メニュー「ツール」の「シェープ 地物リストアップ」でこの点をリストアップし、「チェックリスト」を選択することで、CSVに記録されている座標と内容が確認できます。



番号	属性名	属性値
1	column1	3
2	column2	H
3	column3	2
4	X座標	1
5	Y座標	9
6	column6	0
7	column7	0
8	column8	0
9	column9	0
10	column10	深
11	column11	
12	column12	
13	column13	ノ
14	column14	当 37
15	column15	
16	column16	国
17	column17	0
18	column18	0
19	column19	0
20	column20	0
21	column21	深
22	column22	ノ
23	column23	6
	タイプ	ポイント
	ファイル名	筆界未定構成筆.csv

この点を囲む XML の GM_Surface を選択すれば、元の GM_Surface の属性が確認できます。

データ		地物リスト	属性値	座標値	
番号	属性名	属性値			
1	地物名	筆			
2	id	<input type="text"/>			
3	大字コード				0
4	丁目コード				0
5	小字コード				0
6	予備コード				0
7	大字名				%
8	予備名				%
9	地番				%
10	形状				%
11	座標値種別				0
12	筆界未定構成筆/大字コード				0
13	筆界未定構成筆/丁目コード				0
14	筆界未定構成筆/小字コード				0
15	筆界未定構成筆/予備コード				0
16	筆界未定構成筆/大字名				%
17	筆界未定構成筆/予備名				%
18	筆界未定構成筆/地番				%
19	筆界未定構成筆/大字コード				0
20	筆界未定構成筆/丁目コード				0
21	筆界未定構成筆/小字コード				0
22	筆界未定構成筆/予備コード				0
23	筆界未定構成筆/大字名				%
24	筆界未定構成筆/予備名				%
25	筆界未定構成筆/地番				%
	パート				1 / 1
	タイプ	面			
	面積	257.76063			
	周長	67.22141			
	ファイル名	<input type="text"/>			

4. その他

4.1. 注意

変換元の xml の筆がポリゴンになっていない場合、作成したポリゴンのシェープファイルに、閉じていないポリゴンができてしまいます。例えば xml での「地番」が「道」となっている場合、シェープファイルにひとつのレコードに複数のポリラインがあるケースがありました。

4.2. 更新記録

【7.0.1α 2012/10/01】

- XML を表示できるように改良。

【7.0.1β 2012/10/03】

- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML をシェープに変換]を追加。

【7.0.1B 2012/11/20】

- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML をシェープに変換]での「筆」にフィールド「図郭地図番」の出力を追加。
- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML をシェープに変換]に「図郭」のシェープファイル出力を追加

【7.0.2 2012/11/22】

- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML をシェープに変換]で「図郭地図番号」に対応するフィールド名を指定できるようにしました。

【7.0.2A 2013/01/09】

- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV]を追加。
- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML をシェープに変換]で、「筆」に複数の「筆界未定構成筆」の組がある場合、最初の組をシェープファイルに記録します。

【7.0.2B 2013/01/10】

- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV]で作成する CSV と SYLK に GM_Surface の中心付近の座標を追加。
- メニュー[ファイル]-[開く DEM ファイル]を追加。

【7.0.2C 2013/01/11】

- メニュー[ファイル]-[法務局の地図 XML から筆界未定構成筆 CSV]で SYLK の XY 座標が出力される列がずれる問題を修正。

【7.1.0α 2013/06/27】

- メニュー[ファイル]-[[法務局の地図 XML をシェープに変換]にオプション「サブフォルダの XML も対象」を追加しました。

【7.1.2 2016/10/20】

- XML に記録されている線分の 2 座標が完全に同じ場合、表示や変換ができない問題に対応しました。
- 「道」のように、ひとつの筆に複数の線が記録されている XML の変換に対応しました。

4.3. 目次

MINJI, i

MINJI_tizu_xml_to_shape.csv, 2

tizuxml, i

地図番号, 3